

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和3年度 宮城県意見交換会（第0.5回）議事概要

令和3年8月23日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和3年8月23日（月）10:00～12:00

【場 所】復興庁宮城復興局仙台支所 ／ オンライン

【出席者】（敬称略）

＜副代表団体＞（順不同）

株式会社七十七銀行、国立大学法人東北大大学、宮城県、一般社団法人みやぎ連携復興センター

＜オブザーバー＞

独立行政法人中小企業基盤整備機構

＜復興庁＞

復興庁復興知見班、復興庁宮城復興局

＜事務局＞

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 開会の挨拶

復興庁は元々昨年度末までとして設置された庁であったが、現状に鑑み設置期限が10年延長された。協議会を担当する復興知見班は今年度から発足した班であり、東日本大震災からの復興の取組を被災地内外に発信することをミッションとしている。多様な主体が関与する「新しい東北」の取組ならびに発信を推進するにあたり、引き続きご協力を賜るよう、復興庁より挨拶した。

2 今年度の意見交換会・テーマ案の説明

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに、主に以下の点を説明した。

- ・ 今年度の協議会の方向性
- ・ 過年度までの検討経緯及び課題を踏まえた今年度のテーマ設定案
- ・ テーマの課題に挑戦している企業・団体を巻き込んだ検討の進め方

3 意見交換

3.1 テーマについて

過年度からの取組や課題を踏まえ、「観光振興」及び「伝承と地域の魅力の発信」を今年度のテーマ

としていくことが決定した。その上で、コロナ禍を踏まえて取組を検討していくことや、具体的な取組として震災ツーリズムの実施等も案として意見が挙げられた。

〈主なご意見〉

- ・ 観光を中心とした地域の盛り上げ・発信が候補となるが、コロナ禍を踏まえ既存のやり方とは異なるやり方を考えないといけない。
- ・ 県内の全市町村との対話で、今後の主な取組テーマに観光と行政の電子化が挙がっており、観光振興をテーマとすることは適している。なお、少し前はアフターコロナの視点で各種準備・対応が主軸であったが、終息が見えない現状においては、長期的目線のみならず、足元の事業への効果を加味する必要がある。
- ・ 観光振興については、地域の魅力を出し切れていないと感じる。1団体の取組でなく複数企業・地域をまとめた集合体としての取組が必要。複数団体が参画し価値ある商品を作り上げるためには、共通のビジョン構築や、共通ロゴの作成・活用等の工夫が必要と考える。加えて、世界の富裕層等にターゲットを絞り、素材や技術を活かしたブランドを構築する等の観点も必要と考える。デジタル化の視点では、地域発のアプリを作成することも良いのではないかと考える。
- ・ 観光振興は、地域の少子化・人口減少への対策として交流人口の拡大による経済効果が期待できることから、テーマ設定として適切と感じる。コロナ禍及びコロナ禍後で何ができるかが重要である。
- ・ 国連の『仙台防災枠組 (SFDRR: Sendai Framework for Disaster Risk Reduction)』の日本国内における認知度が低いので、これを高めていきたい。東北ならではという観点では、震災を風化させないことを目的とし震災経験を次世代に伝えていく震災ツーリズムのような取組を日本全体及び世界に発信すると良いのではないか。
- ・ 観光振興は、継続して取組がなされているが、開発の余地があり、地域の若い方の巻き込みも含めてテーマ設定として適切であると考える。

3.2 今年度の注力ポイントについて

地域の魅力を磨き上げることと、コロナ禍による地域企業への影響の解消等を踏まえ即効性のある取組に注力していくことが決定した。また、地域の魅力は個々に発信していくのではなく、地域全体として発信していくことが良いのではないかといった意見が挙げられた。

〈主なご意見〉

- ・ 観光資源の磨き上げが重要であり、震災の伝承がキーワードとなると考えている。これまで個別の取組だったものをどう組み合わせるか、それを支える人材育成の方法はノウハウになるのではないか。

- 震災遺構だけではなく、その地域の名産品を味わったり、裂織のような地域の伝統の技術を体験したり、地域全体をどう見せていくかが重要。アプリで関連ある施設や技術等の情報が結びついて提案されるような仕掛けが作り出せると良い。震災ツーリズムや SDGs を包含したアイデアになるのではないか。
- 年度の取組として、即効性があり、今後の継続に向けた成果が見えるという観点からも、ハーダ等の環境構築より発信する魅力づくりに注力することが適していると考える。
- コロナ対策も重要とは考えるが、今後の状況が読めない中では、まず地域の魅力をしっかり磨き上げることが重要。伝承だけで言えば、伝承ロードのような既存の取組がある。伝承だけではなく、観光としての魅力を織り込んでいくことは、協議会ならではの取組となると考える。さらに、複数の地域の観光協会が連携した取組とすると良いのではないか。

3.3 本年度取組に参画を打診する課題に挑戦している企業・団体の候補について

宮城県全体の魅力を発信していく視点と1団体あたりの負担を軽減する視点から、複数の団体へ本事業への参画依頼を行うことが決定した。

〈主なご意見〉

- 終局的には企業・団体間での自発的な連携が生まれてくることが理想である。そのためには全体を俯瞰して、顧客層のターゲティングや訴求ポイントの明確化、不足部分を補えるような動きができる団体が参画していることが必要と考える。また、過去の経験を踏まえ、自発的な連携につながる仕掛けとしては、1企業・団体では存在感を出し切れないような物産展等を出口に据え、一定以上の回数の活動となることが必要と考える。
- 宮城全体としての魅力を磨き上げるために、参画打診の企業・団体を1団体とするのではなく複数団体とし、負担を分散させると良いのではないか。
- 広く魅力を作り上げていくという観点で、沿岸以外の団体も含めると良いのではないか。また、学生の意見も今後取り入れる機会を作ると、次世代に取組を繋いでいくという視点で良いのではないか。

3.4 協議会としてのサポートについて

主に、課題に挑戦している企業・団体の事業・取組に連携する企業や有識者の紹介や類似の事例からのアドバイスが意見として挙げられた。

〈主なご意見〉

- 資金面のアドバイスや、課題に挑戦している企業・団体が取り組みたい内容に合致する事業者を紹介することができると考えている。

- ・ 条件があれば、実施主体に対するアドバイスも可能と考えている。
- ・ 各種事業でのつながりから必要なネットワーク構築へのサポートも可能。
- ・ 地域で活動する支援団体の紹介や東京等の企業への社員研修の受け入れ経験に基づくアドバイスが可能、と考えている。
- ・ 学生の巻き込みや専門分野に精通する教員の紹介が可能と考えている。

4 閉会

4.1 決定事項

本日の決定事項は以下の通り。

- ・ テーマは、「観光振興」「伝承と地域の魅力の発信」とし、今年度は地域の魅力を磨き上げることに注力する。
- ・ 地域毎に活動している観光協会・DMOを中心として本年度の活動への参画を依頼する。

事務局は課題に挑戦している企業・団体に参画を依頼し、参画団体の課題や今後の取組も加味し、第1回意見交換会の議題案を事前に提示する。

以上